



To Be a Good Company

東京海上ホールディングス株式会社 取締役副社長 グループ CFO 湯浅 隆行

この度は「ディスクロージャー優良企業」に選定いただき、誠にありがとうございます。当社の企業価値を高めていく上で、アナリストの皆様にご理解いただくことはとても重要であると考えています。したがって、この度当社のディスクロージャーの取組みを皆様にご評価いただいたことは大変光栄であるとともに、改めて身の引き締まる思いでございます。

さて、当社は次の100年も真に必要とされる「良い会社、“Good Company”」をめざし、グループを挙げて進化を続けています。その中で、当社のディスクロージャーの取組みについては、ステークホルダーの皆様のご期待や負託にお応えすべく、日々Trial & Errorを重ねています。そこで、本稿では昨今特に注力している点についてご紹介させていただきます。

①分かりやすい成長ストーリーの発信

資本市場の皆様にご当社の本源的価値を適正に評価していただけるよう、2019年度からIR説明会の資料を大幅に刷新し、国内外の強いビジネスモデルや規律ある資本政策を簡潔・明解なストーリーにまとめました。また、海外からは見えにくい国内事業の状況をお示した海外機関投資家向けのIR資料を新設するなど、投資家の関心にあわせたストーリーを発信しています。

更に、2019年度の統合レポートもリニューアルしました。具体的には、当社の事業目的である「お客様や地域社会の“いざ”を支えること」を通じて社会課題の解決に貢献し、結果として当社も成長を続けてきたこと、また、

今後も時代の変化にいち早く対応し、事業を通じてサステナブルな社会づくりに貢献することで、次の100年も真に必要とされる会社をめざしていくという、創業以来の一貫した価値創造ストーリーをご紹介します構成としました。

②対話の質の向上

グループ全体の利益に占める海外事業のウェイトが半分程度に拡大する中、当社海外事業に対する資本市場の皆様の関心も年々高まっています。そこで、主要海外子会社トップ参加の下、海外事業に関する説明会を初めて世界3極（アメリカ・イギリス・日本）で開催しました。また、通常のIR面談では、質疑応答にとどまらず、アジェンダに基づくディスカッションを行うなど、双方向コミュニケーションの実現に努めています。

③社内フィードバックによる不断の経営改善

当社は、資本市場の皆様との対話を通じて得られた意見を、経営陣を含む社内に幅広く報告し、経営の改善に活かす取組みにも力を入れています。具体的には、IRメンバーが各地を訪問し、全国のグループ社員に対して、彼らの日々の業務と資本市場とのつながりや資本市場からいただいた声について説明しました。

Good Companyをめざす取組みに終わりはありません。その中で、当社はディスクロージャーの更なる充実に向けても努力を続けてまいりますので、今後とも一層のご支援とご指導を賜れば幸いです。